

# 専門分野 基礎看護学

- 目的 あらゆる健康レベルにある看護の対象を生活の自立からとらえ、人間を統一  
体として理解し、理論に基づいた看護が実践できる能力を養う。
- 目標 (1) 看護の歴史の変遷を学び、看護の概念を理解する。  
(2) 健康の概念を理解する。  
(3) 看護の対象となる人間を理解する。  
(4) 看護の機能と役割を理解する。  
(5) ヘンダーソンの看護論に基づく生活援助の原理、原則を理解し、対象  
に適切な援助を提供するための基礎的な方法を学ぶ。  
(6) グループワークや看護過程を通して、問題解決方法を身につける。  
(7) 自己の看護観を築くことができる。

科目	単位 (時間)	科目目標	主な内容
看護学概論	1 (30)	1. 看護の歴史の変遷を通して、看護の概念、看護の役割を理解できる。 2. 看護の対象である人間を身体的、心理的、社会的存在の統一体として理解できる。 3. 人間の発達段階を理解し、看護の対象である人間をあらゆる健康レベル、予防介入からとらえることができる。 4. 保健医療福祉における看護活動を学び、看護の機能と役割を理解できる。 5. 看護の先人から「看護とは何か」について理論的な見方を学び、さらにヘンダーソンの看護論の概念と特徴について理解できる。	看護の変遷 看護の概念、看護と健康 看護の視点と対象 看護の機能と役割 ライフサイクルと看護 保健医療福祉と看護 職業倫理 ヒューマンエラー 看護理論 ヘンダーソンの基本的看護 看護過程 講演会
生活機能の アセスメント	1 (30)	1. 人間の基本的欲求を理解し、身体各部の査定について理解できる。 2. 生活機能に基づいて、生活行動の援助方法を理解できる。 3. 援助に必要な解剖を理解し、アセスメントに活用できる。	フィジカルアセスメント コミュニケーション技術 患者-看護師関係 患者教育
生活機能を支える 看護技術	1 (30)	1. 人間の生活機能に応じた観察技術を身につけ、基礎看護技術を実施できる。 2. ヘンダーソン看護論に基づいて、生活行動の援助ができる。	基礎看護技術演習 療養上の世話に関する技術 診療に伴う看護技術 感染予防
看護観演習 I (看護の概念)	1 (30)	1. 実習体験、文献を通してヘンダーソンの主要概念を理解し、自己の看護観を深める一助とする。 2. 演習を通して、安全な看護の要件が理解できる。	看護の主要概念 ラベルワーク/プロジェクト学習 自己の看護観の確認
看護を導く思考過程	1 (30)	1. 看護援助としての看護過程を理解できる。 2. 健康障害をもつ患者及び家族を理解し、健康障害に応じた看護の基本を習得できる。 3. 事例を通して基本的看護の構成要素の情報収集ができる。 4. 事例を通して看護過程の展開方法を習得できる。	基本的看護の構成要素 グループワーク  看護過程の展開
看護研究の基礎	1 (30)	1. 一連の看護研究を通して研究的態度を学ぶことができる。 2. 正しい観察技術を身につけ、方法を理解できる。	看護研究 研究発表会 分科会
基礎看護学実習	2 (90)	1. 対象を生活者の視点から理解し、対象に応じた療養生活の援助ができる。 2. 援助的人間関係や実践の意義を理解し、看護の役割を考えた関係を築き、援助できる。 3. 看護過程の思考プロセスを活用し、対象の特殊性、個別性に応じた看護実践ができる。 4. 看護計画に基づいて、行った援助の成り行きを予測しながら、安全・安楽に実施できる。	看護の視点と対象理解 コミュニケーション技術 フィジカルアセスメント 療養上の世話に関する技術 診療に伴う看護技術 感染予防・事故防止 看護過程の展開